

一酸化炭素(CO)中毒について

◆一酸化炭素(CO)中毒とは・・・

一酸化炭素は石油やガス、練炭、木炭など炭素を含む原料でできた燃料を燃やすとき、酸素（空気）が足りない場合に発生します。LPガス自体には毒性はありませんが、不完全燃焼を起こすと無色・無臭の一酸化炭素(CO)が発生します。一酸化炭素(CO)を吸うと、一酸化炭素が血液中のヘモグロビンと結合して体中をまわり酸欠となり、低濃度(0.01%～)でも長時間吸い続けると頭痛、吐き気、めまい、判断力低下等の中毒症状を起こし、意識があっても身体が自由に動かなくなります。さらに濃度が上がるにつれ短時間で意識不明、生命の危機に陥り、1%を超えると数分間で死亡の危険がありますので注意が必要です。

◆一酸化炭素(CO)中毒事故の原因

原因は、密閉した部屋で換気をせずに燃料を燃やしてしまうことです。LPガスでいえば、室内で使用している燃焼機器（小型湯沸器・風呂がま等）の「燃焼不良」・「給排気不良」・「長時間使用」などが主な原因となる場合が多いです。対応策としては燃焼器を屋外へ移設することが一番ですが、それが不可能な場合は定期的な燃焼機器の点検整備、給排気設備（吸気口・排気筒等）の点検（目詰まり・はずれ等）、燃焼機器使用時の定期的な換気などがあげられます。古い燃焼機器で不完全燃焼防止装置のついていないものはすぐに交換が必要です。万が一の時に備えてCO警報機の取り付けも有効です。また、車の排気ガスには多量の一酸化炭素が含まれています。駐車庫、シャッター付ガレージなどの中でシャッターを閉めた状態でエンジンをかけっぱなしにしたりするのは、自殺行為ですのでご注意ください！！

◆応急処置

- ①安全な場所へ運び、呼吸を確認し、なければ人工呼吸をする。ゆっくり2回、すばやく3回のペースで息を吹き込み、脈がない場合は心臓マッサージをする。
- ②意識が戻れば毛布でくるみ体温の低下を防ぎ、安静に寝かせて救急車を待つ。
- ③数日、あるいは数週間してから症状が現れる場合があるので、軽症でも必ず医療機関へ連れていく。

パロマ製・ガス湯沸器について

ニュースや新聞等で報道されて、ご存知の方も多いと思いますが、経済産業省はパロマ工業が製造した半密閉式ガス瞬間湯沸器において1985年1月から2005年11月にかけて17件の一酸化炭素(CO)中毒事故が発生していたと発表しました。事故があったのはパロマ工業が1980年4月から1989年7月に製造したPH-81Fなど4機種。経済産業省は類似の3機種も含め同社に点検と改修、相談窓口の設置を指示しております。



お願い

危険な・改造・湯沸器を点検いたします
 平素は弊社製品をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。
 弊社が昭和55年から平成11年にかけて、製造いたしました左記7機種の屋内設置型湯沸器には、使用中に排気ガスを屋外に排出するための排気ファンが設置されております。
 この排気が正常に行なわれない場合には、一酸化炭素中毒事故防止のために自動的に製品の燃焼を停止する安全装置が組み込まれております。この安全装置の働きにより、正常な状態の製品では事故は発生していません。
 しかし、何らかの理由で安全装置が働いた場合にも無理に運転しようとして、改造が行なわれたために、一酸化炭素中毒による死亡事故が起きております。
 弊社ではこのような改造により、弊社製品によって死亡事故が起きた事を重く受け止め、このたび該当製品の点検を実施することいたしました。
 該当製品をお持ちのお客様は、左記お問い合わせ先まで御連絡ください。また、詳しくは、弊社製品を永年ご愛用頂いておりますお客様には、ご迷惑をおかけいたしますが、何とぞよろしくご理解のうえ、ご協力をお願い申し上げます。
 平成18年7月15日
 パロマ工業株式会社

お願い お客様の建物に上記に指定された品番の湯沸器が設置されていませんか？
 もし、同品番または室内に湯沸器がありましたら、直ちに使用をやめてりゅうせきエネプロまでご連絡ください。至急！確認、点検を行います。